

自衛隊の歴史を写真でつづるフォトアーカイブ

昭和61年 さようなら駆潜隊

「わかたか」「かささぎ」「はつかり」——海自創設期から30年にわたり、鳥の名前で親しまれてきた駆潜艇最後の部隊、第4駆潜隊（「しらとり」「ひよどり」=舞鶴）が昭和61年3月19日朝、同隊の「しらとり」の特務艇への種別変更に伴い、その幕を閉じた。30年間にわたって我が国の海上防衛に任じた駆潜隊は、昭和40年代の最盛期には20隻5個駆潜隊が在籍、草創期の海自にあって、文字通り第一線部隊として活躍した。護衛艦の増勢などにより、駆潜隊は姿を消したが、それまで日本の沿岸防備に果たした役割は大きい。



上の写真は朝雲新聞社の会員制サイト「朝雲アーカイブ」の新コーナー「フォトアーカイブ」に掲載しています。「フォトアーカイブ」は、朝雲新聞社が所蔵する膨大な写真データの中から、各時代のトピック的な写真を厳選、随時アップし、発足当時から今日の防衛省・自衛隊への発展の軌跡を振り返るコーナーです。

東京オリンピックや日航機墜落事故、阪神淡路大震災、カンボジア PKO といった大きな出来事だけでなく、訓練やイベント、1950年代の駐屯地・基地周辺の町並み、当時の隊員の生活ぶりまでを垣間見ることが出来ます。警察予備隊から保安隊、自衛隊に関わる戦後史の一面を写真でつづる朝雲新聞社ならではの企画です。

<http://www.asagumo-news.com/>